

意見1)

調査結果の説明の最後の部分に、今後どうしていくべきかということで2項目記載されているが、正にそのとおりだと思う。井波庁舎のある場所だけが良くなるのではなく、井波地域全体がプラスになるべきだと思う。そのためには、まずは、井波地域の将来のあるべき姿を考えた後、構想にある機能を全部やるとか、または絞ってやるとか、あるいは、庁舎建物を活用しなくてもこういうような機能を井波の町の中に作っていく、というようなことなども考えるべきではないだろうか。そのような観点で、ぜひ深く突っ込んで検討をしていただきたい。

意見2)

今後のまちづくりビジョンについて、検討メンバーには、肩書きで決めるのではなく、是非とも、この井波のまちを真剣に良くしたいと思う人を選定して、検討会議をしていただきたい。

意見3)

クラフトユニバーシティ構想の中にもものづくりスクールがある。ものづくりにはいろいろな分野があるが、井波地域には井波彫刻があり、井波彫刻訓練校があるので、例えば、構想にあったものづくりスクールなどの機能を導入することについては、井波地域の既存の機能や施設の実態を検証しながら、調査・検討した上で導入してほしい。検討にあたっては、専門家も交えて、幅広く意見を取り入れていただきたい。

意見4)

まずは、井波地域のまちづくりビジョンを策定することに私も賛成である。調査結果の事業期間の中で15年間程度が望ましいとあるが、もう少しスピーディーに出来ないか。

南砺市政策推進課まちづくり推進係 山下係長

調査結果の事業期間の中で15年間程度が望ましいと説明したが、それは、庁舎を活用して、これらの機能を盛り込む場合に、そこにつぎ込んだ資金を回収するのに15年程度の計画を持ってやるべきだ、という期間である。まちづくりビジョンの策定期間とは違うことをご理解いただきたい。

意見5)

井波地域をどういう状態にすれば良いのかというロードマップのようなものが必要だと思う。これまでは、「ここをどうするのか」という単点での議論がずっと進められていたような気がする。地域の皆さんの意見をきちんと聞いて、あるいはアンケートを取って、進めていく必要があると思う。人口減少や企業の撤退のほか、日本遺産を始めとする文化基盤を上手く使わなければならないという問題もある。それから、今後の検討メンバーは幅広く募るべき。広く公募してはいかがだろうか。今までのように肩書きに拘ったメンバーで進めても、住民の声が拾えない。

意見6)

調査結果で「○」と示された機能について事業は成り立つと書いてあるので進めるのかと誤解したが、まちづくりビジョンをつくる方針を見て安堵した。しかし、採算の考え方が分からない。経費がどのくらいかかるのか、また、それぞれの機能が一緒になってこそ分担できるということもあるだろう。来客数や1日の収入など収入面のシミュレーションも行って、採算が取れることが見込めないと絶対にやる

べきではない。機能を絞った形で施設を整備（減築・解体して新築）することであれば実現性はあると資料にはあったが、よほど、とことん議論を戦わせて進めないと、組織や赤字負担の責任者がどうなるかも見えない。

それから長期ビジョンを考えるにあたっては、八日町通りが重要伝統的建造物群保存地区の指定を受ける必要があるだろうし、宝である日本遺産の井波彫刻を長期ビジョンに結びつけることが非常に重要だと思う。また、井波地域にある木彫りの里やアスモなどの様々な民間施設の採算状況を然るべき選ばれたメンバーの人たちが知った上で、例えば10年後はどうなるのかということのを頭に置きながら、庁舎跡地の活用を含めて、どれを優先していくのかを考えていくことがとても重要だと思う。100年先の未来を考えるジソウラボのように、是非若い人たちを中心に、我々がアシストするような検討会議とすべきだろうと思う。隣の庄川では、5年ほど前に、多くの人に参加して何度もブレインストーミングを行い、町のあるべき姿をまとめ、今も会報を出している。庄川に出来て、井波に出来ないはずがない。

庁舎跡地活用に係る市の財源として基金5.25億円が明示されたが、庁舎跡地活用に限らず、井波の発展のために使えるように考えてもらいたい。

長期ビジョンの順番の中で、日本遺産、彫刻、来年は木彫刻キャンプが開催されるので、そういうことを数珠つなぎにして、どうするのが良いのかということのを若い人たちを中心に検討していただければありがたい。

南砺市政策推進課まちづくり推進係 山下係長

調査結果で「○」と示された機能については実現可能性があるかという点について書いてあるが、来客数や1日の収入などのシミュレーションは、標準的なパターンを用いて計算されているものである。導入しようとする際には、さらに詳細な検討を進めることが望ましい、ともある。他の「△」や「×」の機能に比べると、比較的導入しやすいという結果であるということをご理解いただきたい。

南砺市総合政策部 川森部長

市の基金の5.25億円については、行政の方でまちづくりに使っていたらこうということによって基金を積んでいるもの。城端、福野、井波の庁舎が無くなったことから、地域の活性化に向けた取り組みをということで、この基金を活用して拠点づくりに使っていただきたいという趣旨のものである。

調査結果で「○」と示された機能を現在の庁舎にそのまま使っていこうとすると、空いたスペースが出てくる。庁舎の年間の維持管理費に膨大な費用がかかることから、この大きな庁舎建物の中で「○」と示された機能だけをやっても経費だけが高くなってしまって、持続した取り組みにならない。その場合には、庁舎建物を減築、例えば庁舎建物の半分を壊して規模を小さくする。あるいは、そんな中途半端なことをせずに、例えば木造でコンパクトなものを新築する、などということも含めて、これから議論が必要だと思う。ちなみに、庁舎として建物全体を使用していた時の維持管理費は3,000万円だった。それを年間の事業費で賄うにはかなりの集客が必要だと思う。詳細な金額については、調査の中では詰めているので、この場でその説明は差し控えるが、いずれ、基本計画が策定され、検討チームが立ち上がった時には、先ほどのご意見のように、しっかりと細かいところも調査しながら、議論を深めていく必要があると思っている。

意見7)

今ほどの説明の確認だが、市の基金の5.25億円は、庁舎建物の整備のためのお金ではなく、まちづくりのための準備のためのお金と認識しているが、広い意味でのまちづくり全体に使うことが可能な金額

であると捉えてよろしいか。

南砺市総合政策部 川森部長

ビジョンを作る中で、庁舎建物にこういう機能を持たせて、どういう施設にしていけば良いかという議論が出てくることになるが、そこをある程度形のあるものにしていくための経費ということである。例えば、別の所の何かを整備するためにこのお金を使いたいということは当てはまらない。基本的には、この話の発端は、庁舎が無くなってしまって、この地域の活気が無くなってしまわないかというところから、この庁舎を使って地域の活性化につなげていただきたいというための基金である。あくまでも、庁舎を何かしようとする時に使っていくというふうに考えていただきたい。この庁舎を使ってのハードの費用やその建物で何かに取り組むための一部ソフトの費用に使っていくことは可能だが、全く別の施設を何かする時には別のメニューがあるのでそちらを対応していくということでご理解をお願いしたい。

（以上）